





審査結果報告書

平成 28 年 8 月 29 日

主 査 氏 名	高平 尚伸	
副 査 氏 名	佐藤 春彦	
副 査 氏 名	東條 美奈子	
副 査 氏 名	堀江 利光	

1. 申請者氏名 : DM12003 阿部 義史

2. 論文テーマ :

血液透析患者に対する疾病管理のための歩行速度に関する研究：脳・心血管疾患イベント発症リスクとの関連性と歩行速度を低下させる因子の検討

3. 論文審査結果 :

血液透析治療が導入された末期腎不全患者(HD 患者)の運動機能および歩行能力(歩行速度)は同年代の地域在住健常者と比べて著しく低下していることが明らかとなっている。特に、歩行速度の低下は日常の身体活動量、日常生活活動および生活の質の低下と強く関連し、心疾患や脳血管疾患といった慢性疾患を有する患者の生命予後と強く関連することが指摘されている。このため、HD 患者においても、疾病管理の一環として、歩行速度に着目する必要がある。本研究は、上記の背景をもとに、HD 患者に対する疾病管理目標を具体的に捉える目的から、研究 1 では、HD 患者の歩行速度とその後の脳・心血管疾患イベント発症リスクとの関連性を縦断的に調査したうえで歩行速度の管理目標値を検討し、研究 2 では、HD 患者特有の併存疾患ならびに運動機能を詳細に調査したうえで、歩行速度を低下させる要因について検討している。その結果、研究 1 では、HD 患者の歩行速度はその後の脳・心血管疾患イベント発症率と独立して強く関連しており、最大歩行速度を男性で 89 m/分、女性で 85 m/分以上に維持していた者はそれ以外の者と比べて、脳・心血管疾患イベント発症率が有意に減少することを明らかにした。また研究 2 では、HD 患者の歩行速度を規定する因子として、下肢筋力や立位バランス機能といった運動機能に加えて、心疾患の有無ならびに過去の骨折歴の有無が認められた。本研究は、日常の身体活動量を左右する歩行速度が年齢等の臨床的背景因子で調整しても HD 患者の生命予後を規定する独立した因子であること、さらに HD 患者の歩行速度を左右する因子を具体的に示した国内外を通じて初めての報告といえる。このことから、本研究の成果は、HD 患者に対する疾病管理とその管理目標値を決定するうえで、さらにリハビリテーションを含めた治療指針を決定するための有用な資料となり得ると思われ、博士論文に値すると判断した。